

C-76 大気汚染の色彩に対する影響の吟味に就いて

和洋女子大文政 村田ハキ代 滝沢初美 渡部春栄 O伊藤秀三郎

目的 大気汚染の主体は何んであろうか、煤煙と排気瓦斯とであつて、臭気や粉塵等が混つてゐる。私共は濃度の点のみに絞り、目的として色彩に対するその影響を選んだ。

方法 **手技** 横位にされた透明なポリエチレン製の立型ピペット、洗淨器の底面中央に、いろいろな色彩の紙片(正方形)一枚を貼付し、ビニールで蔽わせた反対側の面より、実験者は注視しつつ、側管より挿入された焚煙線香による煙の濃度で、その色彩が変色するか、消失するかまでを觀察した。尚濃度の程度は、線香の焼失距離より推定することにした。即ちこの距離は濃度に比例すると見做した。線香は蘭月で、その焼失速度は13.5ミリメートル/秒である。

**項目** 列挙すると、(1)紙の色彩を変えた場合 (2)変色と消失(色)とを比較した場合 (3)紙の大きさを変えた場合 (4)背景の色彩を変えた場合 (5)濃度の或立具合を変えた場合 及び (6)実験者を変えた場合である。

**期日** 昭和47年12月15日 ~ 昭和48年8月4日

**実験者** 成人若干名 **色彩** 赤・黄・緑・水色・紫・黄緑・橙・青・茶・ピンク・黒・金・銀

**結果** (1)濃度による変色では銀色、消失(色)では黄緑色が早い。(2)変色より消失の方が濃度が甚しい。(3)紙の大きさと濃度とは対応する。(4)背景の色彩は影響する。(5)濃度或立の早さは消失とは対応するが変色では不確定である。(6)消失確認には個人差があるが性差はない。